

やっぱりおかしい… 土壌汚染地に生鮮市場

豊洲移転は中止を

ただちに
被害者へ
の補償を

築地市場の豊洲移転が日本を揺るがす大問題になっています。この問題の核心は何か。3つの点から考えてみましょう。

1 豊洲新市場は東京ガスの工場跡地 そもそも市場にしてはいけなかった場所だった

豊洲新市場予定地は東京ガスの工場跡地です。工場では石炭を高温で熱し、大量のヒ素を使ってガスをつくる中で、発がん性のベンゼンや猛毒のシアン化合物、さらに水銀や六価クロムなど有害物質が発生していました。長年の操業を通じてそれらは土壌や地下水にしみこんでいきました。東京ガス自身も当初は、「豊洲は土壌が汚染され、生鮮食品を扱う市場としては不適切」(小池知事の石原知事に対する質)と言っていたのです。

▼都の「豊洲新市場予定地における土壌汚染対策等に関する専門家会議」での配布資料から

今はこうだが……元々は、こんな場所



▲東京都中央卸売場のホームページより、完成イメージ図



昭和43年：工場操業時

元東京ガス社員の証言から

この場所では、コンクリートで囲いをつくり、そのなかに石炭からガスを取り出す過程で出る廃タール(有害物質が含まれる)をためていた。当時は、下にシートを敷く発想はなく、囲いの中にそのまま流し込んでいた。

2 いくら「対策」しても… 汚染の不安はなくなる

東京都は最先端技術で汚染対策をしたとっていました。しかし実態は「盛り土」がなかったことに象徴されるように、実はいいかげんでした。そもそも、汚染された土壌が残っており、それがどこまで広がっているか、汚染された地下水はどうなっているのか、不明な点がたくさんあり、これからも有害物質が出てくる可能性が常につきまといます。仮に市場を開設した後に汚染がでたら、そのたびに大混乱が予想されます。市場は実験場ではありません。こんな場所に生鮮食品を大量に扱う市場をつくっていいのでしょうか。



▲東日本大震災の時には、豊洲新市場予定地の敷地内で液状化により108箇所噴砂、噴水が発生しました。液状化で汚染が新たに地中に広がった恐れもあります。

3 将来にわたって、命と健康をおびやかす大問題 今生きる私達がキツパリ決断すべき時です

築地市場は都内に11ヶ所ある中央卸売市場の中でも最大で、とくに魚など水産物の取り扱い量は9割以上。まさに都民の台所です。「豊洲があそこまで出来ているのだから…」という意見もあります。しかし、ことは今だけの問題ではありません。これから生まれてくる将来世代の命と健康をおびやかすことになるのではないのでしょうか。

移転は中止し、都民と関係者、専門家の知恵をつくして、最善の解決策をさぐるべきときです。



命・くらしを守る 都政改革に全力

植木こうじ都議からバトンタッチ。
リハビリ・作業療法士と区議会議員の経験を生かし、
都民のくらし、医療・福祉を守るため全力をつくします。

中野区議会議員・作業療法士
都議予定候補

うらの 智美

浦野さとみ

日本共産党

- 待機児ゼロへ認可保育園9万人分増設
- 特養ホームの増設。高齢者福祉の拡充
- 小児救急医療をはじめ入院ベッドの拡充
- 大学生・専門学校生・高校生に返済不要の奨学金を
- 都議会議員の日当(1日1万円)廃止
- 中小企業支援の抜本的拡充

プロフィール ●1980年生まれ。千葉医療福祉専門学校卒。
作業療法士・元中野共立病院リハビリ室主任。中野区議2期目。



▲共産党都議団によって初めて撮影・公開された地下空間の写真

この一枚の写真が日本中を震撼させた

日本共産党都議団の「豊洲」追及ヒストリー

「築地市場は現在地で再整備」—これが1990年代までの都の方針でした。ところが99年の石原都政誕生で話が一変。石原知事は2001年都議会で豊洲移転を正式に表明しました。関係者をはじめ都民の反対運動がまきおこり、豊洲移転をめぐる激しい対決が始まったのです。

第1幕 2001年～05年

石原知事の豊洲移転にキツパリ反対

共産党都議団は「築地市場移転に断固反対する会」の総決起大会(99年)への参加をはじめ、都民運動と力をあわせ「土壌汚染で問題ある豊洲移転を強行するな」と議会で何度も主張。知事の方針転換に反対しました。

その時、都議会自民党は

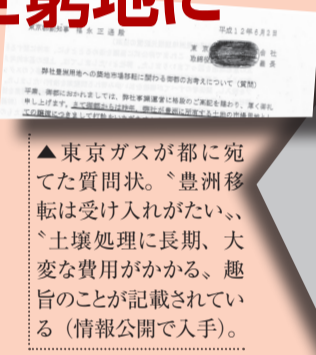
豊洲移転をあおる

豊洲に土壌汚染があることは、2001年1月に東京ガスが発表していました。それにもかかわらず「積極的に豊洲への移転を進める必要がある」(自民、01年2月)、「移転整備を促進されたい」(公明、02年11月)と移転をあおっていました。

第2幕 2006年～07年

汚染対策の欠陥追及。知事を窮地に—石原知事「再調査」を公約

都が土地購入前に東京ガスに求めた「汚染調査・対策」は欠陥だらけ。07年2月、共産党都議団はその問題点を専門家の協力もえて具体的に明らかにしました。さらに内部文書も示し知事の強引な姿勢を告発。世論も高まり直後の知事選で石原知事は、都の再調査を公約しました。



▲東京ガスが都に宛てた質問状。*豊洲移転は受け入れがたい、*土壌処理に長期、大変な費用がかかる、趣旨のことが記載されている(情報公開で入手)。

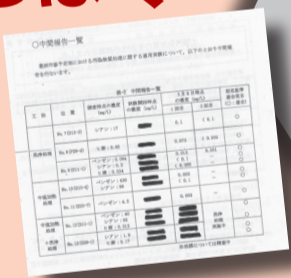
知事をかばい、着実に進めよと後押し

共産党の追及を「いたずらに都民の不安をあおる」と敵視し、石原知事をかばう質問(自民、07年2月)をしました。公明党も「着実に整備を進めていただきたい」(07年11月)と豊洲移転を要求しました。

第3幕 2008年～11年

「汚染を無害化」のウソをあばく

08年の再調査では基準値の4万3千倍のベンゼンなど深刻な汚染が次々発見されました。ところが都は10年3月に他の土壌の室内実験結果をもとに「有害物質は無害化できた」と、あたかも4万3千倍のベンゼンが環境基準以下になったように報告。そのウソをあばいたのが日本共産党都議団です。その活動は世界的に有名な科学雑誌「ネイチャー」(10年4月26日付電子版)にも紹介されました。他にも様々なデータ隠しを暴露しました。



▲肝心な部分が黒塗りの都の報告

都の「汚染対策」を絶賛

ここまで都の汚染調査・対策のウソが明らかになったのに自民党は10年10月の委員会で「豊洲新市場予定地は市場用地として十分安全・安心が確保されている」と都の対策を絶賛。公明党も「この問題をこれ以上先送りせず…豊洲新市場の整備に一刻も早く着手すべきである」と移転促進を求めました。

第4幕 2012年～現在

「盛り土なかった」衝撃の告発

東京都は数々のごまかしをしながら、それでも盛り土があれば汚染を閉じ込められるとして建設を強行します。共産党都議団は建設談合疑惑など、その後も次々と問題点を告発。そして今年9月に全国に衝撃を与えた「盛り土がなかった」ことを発表したのです。マスコミも大きく報道しました。



それでもまだ、豊洲に前向き、

今年10月の都議会で自民党は、新聞も「豊洲移転 自民なお前向き」(「朝日」10月8日付)と報道されるような姿勢に終始しました。

そして新たなステージへ決めるのは都民です

移転中止検討の署名にご協力を

東京都知事 小池百合子 様

【要請項目】 豊洲新市場予定地の徹底した安全性の調査・検証をおこない、安全・安心が保証できなければ、築地市場の豊洲への移転は中止すること

氏名	住所